反対の意味の慣用句プリント③

使う言葉を手がかりに、反対の慣用句を書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

反対の意味とは、同じことについて、向きが反対になっている意味のことです。

①問の枠の慣用句と反対の意味の慣用句を、その問の「つかうことば」をそのまま入れて、「反対の意味の慣用句を書こう」の右のわくの中に書きましょう。ひらがなで書いてもよいです。

②何についての反対かは、各問の「何についての反対？」に書いてあります。これを手がかりに、向きをぎゃくにした慣用句を考えましょう。

れい **腰が重い** ＝なかなか行動に取りかかろうとしない

何についての反対？ → すぐに動き出すかどうか

つかうことば **尻** → **尻が軽い** ＝さそわれるとすぐに動く

問1 **甲乙つけがたい** ＝どちらもすぐれていて、よしあしが決められない

何についての反対？ → ちがいがはっきりしているかどうか

つかうことば **一線**

反対の意味の慣用句を書こう ＿＿＿＿＿＿

問2 **言葉を濁す** ＝はっきり言わないで、あいまいにごまかす

何についての反対？ → かくさずにはっきり話すかどうか

つかうことば **胸襟**

反対の意味の慣用句を書こう ＿＿＿＿＿＿

問3 **顰蹙を買う** ＝したことで、まわりの人にいやがられたり、見くだされたりする

何についての反対？ → まわりからの見られ方がよくなるかどうか

つかうことば **面目**

反対の意味の慣用句を書こう ＿＿＿＿＿＿

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます

反対の意味の慣用句プリント③【こたえ】

使う言葉を手がかりに、反対の慣用句を書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

反対の意味とは、同じことについて、向きが反対になっている意味のことです。

①問の枠の慣用句と反対の意味の慣用句を、その問の「つかうことば」をそのまま入れて、「反対の意味の慣用句を書こう」の右のわくの中に書きましょう。ひらがなで書いてもよいです。

②何についての反対かは、各問の「何についての反対？」に書いてあります。これを手がかりに、向きをぎゃくにした慣用句を考えましょう。

れい 腰が重い ＝なかなか行動に取りかかろうとしない

何についての反対？ → すぐに動き出すかどうか

つかうことば 尻 → 尻が軽い ＝さそわれるとすぐに動く

問1 甲乙つけがたい ＝どちらもすぐれていて、よしあしが決められない

何についての反対？ → ちがいがはっきりしているかどうか

つかうことば 一線

反対の意味の慣用句を書こう 一線を画す

「差がつけられない」と「はっきり区切る」が反対

丸つけ：□「一線」が入っている　□意味が反対　『いっせんをかくす』とひらがなで書いても○。
別解：『一線を引く』も○（意味は同じ）。『一線を越える』は意味が反対にならないので×。

問2 言葉を濁す ＝はっきり言わないで、あいまいにごまかす

何についての反対？ → かくさずにはっきり話すかどうか

つかうことば 胸襟

反対の意味の慣用句を書こう 胸襟を開く

「ごまかす」と「かくさず打ち明ける」が反対

丸つけ：□「胸襟」が入っている　□意味が反対　『きょうきんをひらく』とひらがなで書いても○。
別解：『胸襟を開いて』のように形が変わっても○。『心を開く』は「胸襟」が入っていないので×。

問3 顰蹙を買う ＝したことで、まわりの人にいやがられたり、見くだされたりする

何についての反対？ → まわりからの見られ方がよくなるかどうか

つかうことば 面目

反対の意味の慣用句を書こう 面目躍如・面目を施す

「いやがられる」と「よい評価を受ける」が反対

丸つけ：□「面目」が入っている　□意味が反対　ひらがなでも○。
『面目を失う』『面目をつぶす』は評価が下がるので×。『面目を保つ』『面目が立つ』は「よくなる」ではないので×。